

## 平成 24 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

本校は、高い学力と高邁な精神を培い、21 世紀を担う有為な人材の育成をめざす。

- 1 良識溢れる豊かな人間性を持ち、国際感覚に富んだ、社会に貢献する、リーダーシップを取ることのできる人材の育成を図る。
- 2 学校をめぐる情勢の変化に迅速に対応しうる機能的な組織運営に努め、他校をリードする先進的な学校づくりを展開する。
- 3 「入りたい」「入ってよかった」、保護者や地域社会から「入らせたい」「入らせてよかった」と期待され信頼される学校を創る。
- 4 地域の教育センター的役割を果たしうる、地域の期待と信頼に応える「開かれた学校」をめざす。

## 2 中期的目標

## 1 学力の向上と規範意識の醸成

(1) 進学を重視した規律ある学校として大阪を代表する全日制普通科単位制高校の確立

- ア 生徒のニーズの変化に対応し、進路目標の実現に向け常に適切にカリキュラムの研究と編成を行なう。
- イ 本校での学習活動のみで、難関国公立大学やの国公立大学医学部医学科等への合格に必要な学力を育成する。
- ※ 26 年度においてセンター試験受験率 90%以上、国公立大学合格者現役 30%以上をめざす。
- ※ 高い志を育て、進路希望第一志望達成率 70%をめざす。

(2) 「規範なくして学力向上なし」の合い言葉で、安全で安心して学校生活に取り組みめる環境を確立するとともに維持・発展させる。また、人権意識豊かな人間形成に努める。

- ア 学習指導・生徒指導・進路指導等において他校をリードし、他校の範となりうる工夫、実践に努める。
- ※ 26 年度においても一日平均家庭学習時間を府下トップレベルにし、遅刻者数府下最少を維持する。

(3) 「使える英語プロジェクト」事業により、英語力の向上を図り TOEFL などに積極的に挑戦する生徒を育成する。

- ア 3 年計画で 1 年より順次、学年全員の Pre-TOEFL 受検を実施し、3 年後は全学年で実施。3 年では高校で身に付けるべき英語の発展的レベルの単語や表現の会話、ディスカッションでの運用をめざす。

## 2 先進的で他をリードする学校づくり

(1) 教職員の指導力向上をめざし、授業改善に努めるとともに生徒指導、進路指導面においても指導力の向上をめざす。

- ア 他府県先進校への教師派遣（年 6 名程度）。

(2) 組織的な協働体制による学校運営の確立

- ア 教職員全員で組織的に校務に取り組みよう効果的・効率的な組織体制を構築するとともに、常に社会や学校を取り巻く情勢の変化に迅速に、有効に対応できるようにその維持・改善に努める。また、教員がより多くの時間を生徒対応に使うことができるよう業務のスリム化を追求する。
- ※ 26 年度までに ICT の活用により、事務時間の削減と職員会議を月 1 回に減らす

(3) 次代の学校経営の担い手になりうる教員の育成に努める。

## 3 保護者・地域から信頼される学校づくり

(1) 子どもが「入りたい」保護者が「子どもを入れたい」そして「入ってよかった」「入れてよかった」と地域に信頼され誇りにされる学校づくりを続けていく。学校説明会参加者数の大幅増に努める。

(2) 地域の教育センター的役割を果たしうる、情報の発信に努め地域の信頼に応える。

- ア 槻の木 MANABI カフェの開催と充実（地域人材の活用）

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 24 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度前期の授業アンケートでは、「授業の説明はわかりやすい」の肯定的な回答が 1 年 89.6%、2 年 84.7%、3 年 87%であった。しかし、学校教育自己診断の「授業内容が学習意欲の刺激になっている」では 64%と低くなっている。生徒が主体的に授業に取り組む姿勢を育てるとともに、授業内容や形態についてさらに工夫改善を重ねる必要がある。</li> </ul> <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規律を守った生活を送っている。肯定的回答は 92%だが、先生は生徒の意見を聞いてくれる 66%、悩みや相談に親身になって応じてくれる 65%とやや落ちる。また、気軽に相談できる教職員がいるは 48%、教職員のカウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っているも 64%と低く、生徒が相談しやすい状況をさらに醸成する必要がある。</li> <li>・保護者の 86%が学校の生徒指導の方針に共感できると回答、さらに理解をいただけるよう努めていく。</li> </ul> <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修組織が確立、計画的に実施されている 89%、実践に役立つ 78%若手を学校全体で育成している 94%など、教職員の資質向上に向けては一定体制がとれているが、さらに内容の工夫や充実が求められる。</li> <li>・教職員の相互理解がなされ、信頼関係があるが 82%、さらに向上をめざす。</li> <li>・学校は保護者や地域の人たちから意見を聞く機会を設けている 81%の肯定的回答をいただいているが、さらに発信力を強めたい。</li> <li>・学校の施設・設備は学習環境面で満足できる、肯定的回答は 49%に過ぎない。委員会の協力をいただき改善に努めたい。</li> </ul>	<p>第 1 回 (5/19) 「創立 10 周年を迎えて～次の 10 年を見据えて～」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長の明確なビジョンと揺るぎない信念、校長の学校経営ビジョンを効果的に実行できている、機動的な校内組織づくり。とくに首席や室長といったミドルリーダーに有能で意欲の高い教員を抜擢し、育成している。初代校長が礎を築き、それを次いだ現校長が更なる発展を求めて不断のイノベーションを行っている。</li> <li>・地元の強い支持・期待。本校はそれまでの大阪の公立高校に満足していなかった高槻の市民のニーズをつかみ、それに応える学校づくりを行い、実績を残した。地元の強い支持は学校改革を継続する力となっている。</li> <li>・「古より業を創めてこれを失うものは少なく、成るを守ってこれを失うもの多し。」一段の飛躍を果たすためには、「これまで」よりも、「これから」が問われる。創業の志を確認し、改革の理念を引き継いで、しっかりと判断し主張し行動する人材を、高校教育を通じて熱く育成して欲しい。すべての関係者が、今こそ覚悟と努力を問われている。</li> </ul> <p>第 2 回 (1/12) 「学校教育自己診断から今後を探る①」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体として「適切な自己診断」が行われている。全体として高い評価を得ている。</li> <li>・「自分の考えを発表する機会」が不十分である。もちろん総じて肯定的な結果が示されている中だからこそ目立つと言えるのだが。</li> <li>・他校では教職員の自己評価は低い傾向にあるが、槻の木では高い比率を示している。学校の特色、強みを理解したうえで実践しているということだ。</li> <li>・施設・設備に満足していない。建設されて 60 年余りという古さが問題なのか。特にトイレの老朽化は手当てをすべきだ。私学では絶対にあり得ない。</li> <li>・評価すべき確認事項をより精査すべきだ。「楽しい」などイメージは評価するに相応しくない。学校の教育目標とリンクする項目（学力・規範）が成果に結びつくか、すなわち改善に役立つことが必要だ。</li> </ul> <p>第 3 回 (3/16) 「学校教育自己診断から今後を探る②」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら組織を担うという意識を育てることがさらに生徒の力を伸ばす。生徒の企画・運営の場を。</li> <li>・人の真価にふれるような取り組みを考えてほしい。多くの大人との触れ合いが重要である。</li> <li>・国際的な世界でタフに生きていかねばならない、志を持ち、生きる、メッセージの発信を。</li> <li>・これからさらに、経営手腕を持った人材（教職員）を育ててほしい。</li> </ul>

## 府立槻の木高等学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力の向上と規範意識の醸成	<p>(1) 学習意欲のさらなる向上と学力の向上を推進</p> <p>(2) 規範意識のさらなる向上</p> <p>(3) 「使える英語プロジェクト」事業の活用による英語力の向上</p>	<p>ア・難関国公立大学にも対応し、生徒の変化に対応したカリキュラムの研究を継続する。</p> <p>イ・課題、予習、復習による家庭学習時間の増加と学習内容の充実に努める。</p> <p>・自己肯定感を高め、より高い志をもって進路に挑戦するよう担任のみならず進路担当、教科担当等学校全体での面談の充実を図る。</p> <p>ウ・1年次での職業観、勤労観育成のための取り組みの充実を図る。</p> <p>ア・遅刻数のさらなる減少をめざす。</p> <p>・生徒の安全確保のため、自転車指導等交通安全週間などを設け、指導の充実を図る。</p> <p>・学年集会、各年行事などあらゆる機会をとおして時間遵守の徹底を図る。</p> <p>ア・1、2年でのPre-TOFEL テストの全員受験</p> <p>・放課後のT-NET活用による英語特別レッスンへのさらなる参加を促し使える英語の向上を図る。</p>	<p>ア・選択者数などを参考に常に検証する。学校協議会からの評価をもらう。</p> <p>イ・前年との比較、平均10分の増を見込む。</p> <p>・センター受験率の増加73.5%から77%へ。</p> <p>・面談回数4～5回、面談時間の増加。</p> <p>ア・規律を守った高校生活を送っている。生徒90%以上（H21年度86.9%）保護者95%以上（H21年度93.2%）</p> <p>・開始時間の把握</p> <p>ア・1年377点以上25%以上、2年397点以上25%以上</p>	<p>(1)ア、新学習指導要領に対応した新たな選択科目の設定等懸案事項を解消した。(○)</p> <p>イ、課題による家庭学習時間の平均は平日で80分、休日で120分ほどで推移。しかし、予習・復習による時間確保が望まれる。(△)</p> <p>・センター受験率78%(◎)</p> <p>・3年啖啄サポートでは6回以上確保、1・2年では懇談時間を学校全体で確保した。(○)</p> <p>(2)ア、規律を守った高校生活を送っている。肯定的回答生徒92%、保護者97%(24年度)(◎)</p> <p>また、子どもの間違った行動を厳しく指導してくれる94%と保護者の信頼度は高い。</p> <p>(3)ア、Pre-TOFEL、2年10月に実施。397点以上は13%と目標を達せなかった。しかし、1年次は4%であり、377点以上は16%であったものが32%となり、着実に向上している。(△)</p>
2 先進的で他をリードする学校づくり	<p>(1) 教員の指導力の向上</p> <p>(2) より組織的で効率的な協働体制の構築</p> <p>(3) 若手教員の育成</p>	<p>ア・外部講師活用により授業研究会の充実をはかり、前期、後期各1回の授業アンケートのさらなる活用を図る。</p> <p>・他教育機関による教科力向上の支援をさらに進める。</p> <p>・先進校への教師派遣を勧め、さらに先進校の取り組みの導入を図る。</p> <p>・生徒指導においては、生徒の変化を良く見極め、個々に応じた適切な指導ができるよう指導力の向上に努める。</p> <p>ア・ICTを活用し、教職員間の円滑な情報の伝達と共有を推進する。また、電子黒板を活用した授業の研究を実施する。</p> <p>ア・管理職、ベテラン教員による若手教員の校内研修を年5回以上実施する。</p>	<p>ア・研修についてのアンケート。生徒の授業満足度85%(H23年度前期はい、どちらかと言えばはい83%)</p> <p>・先進校への派遣6名以上。</p> <p>・保護者、地域からの指導への苦情の減少。</p> <p>ア・ICTの活用による紙資料の削減、購入費用。</p> <p>・電子黒板利用の回数と効果の検証。</p>	<p>(1)ア、教員研修の一環として授業研究会は前後期のそれぞれ1回総括を実施、いずれも95%以上の教員が参加。また、相互に授業研究する期間を1ヶ月以上ずつ設けた。絶えず内容の工夫、教員の学ぶ姿勢が問われる。(○)</p> <p>・鳥取県に2名派遣。3月に2名派遣予定。先進校での学びは絶えず必要である。(△)</p> <p>・学校の生徒指導の方針に共感が持てる。肯定的回答保護者86%。きめ細かな指導に心掛ける。</p> <p>(2)ア、ICT機器が授業等で活用されている。教職員90%が肯定。しかし、維持継続させるためには次を担う人材の育成が急務である。(△)</p> <p>・スキルアップ研修7回実施。(○)</p>
3 保護者・地域から信頼される学校づくり	<p>(1) 子どもが「入りたい」保護者が「子どもを入りたい」そして「入ってよかった」「入れてよかった」学校づくりの推進</p> <p>(2) 地域への情報発信と地域人材の活用</p>	<p>ア・進路、生活指導などで実績を積み、それを中学校、中学生・保護者、地域の方々にきめ細かく発信し、信頼にたる学校づくりを進める。</p> <p>・個人面談だけでなく学年懇談会、進路説明会などをできる限り多く開催し保護者の信頼をさらに得よう努める。</p> <p>ア・槻の木MANABIカフェの充実により生徒のキャリア教育も兼ね、地域の人材を活用し、地域の方に学校に来ていただき学校の活動に理解を頂くとともに、学校のもつ知的、人的資源を地域に還元する。</p>	<p>ア・生徒「入ってよかった」75%以上（H21年度68%）、保護者「入ってよかった」95%以上（H21年度92.6%）</p> <p>・各懇談会、説明会での満足度90%以上。</p> <p>ア・MANABIカフェへの生徒、保護者地域の方の参加者数の増加及び満足度80%以上をめざす。</p>	<p>(1)ア、「入ってよかった」72%、「入れて良かった」79%、生徒は肯定的回答がやや増えたものの、保護者は減った。保護者の期待度が年々高まっていることを認識する必要がある。(△)</p> <p>・学校は教育方針をわかりやすく伝えている87%、学校は保護者の願に応える努力をしている86%と高い評価を頂いている。また学校の授業参観や行事に参加したことがある81%とあるが、100%をめざして努める。(◎)</p> <p>(2)ア、保護者や地域の方が授業等を参観する機会を設けている、肯定的回答89%。さらに様々な機会をとらえて開放していく。</p> <p>・今年度1回目のMANABIカフェの満足度は91%であった。今後も充実した内容となるよう取り組みたい。(○)</p>